

巻 頭 言

チベット高原と遊牧民

副代表幹事 間瀬 雅彦

5 月末から 6 月初旬にかけて中国、チベット自治区（西藏自治区）を訪問した。天空の地、チベットは私にとって数年来の憧れの地である。今から 100 年ほど前まで厳重な鎖国政策をとり、いかなる外国人も入国を認めず、孤高を守り続けてきた地である。現在は中国政府の管理下にあるが、チベット仏教、チベット文字など、今なお独自の文化を保っている。

チベットを訪問した時は、ちょうどチベット民族にとってはお祭りの時でもあり、首都のラサは周辺の村々から多くのチベット人が拝礼に集まっていた。皆一様に貧しく、その日、その日の暮らして精一杯のようにも思えるが、手に握られた僅かな金銭をお布施して廻るその姿は何の迷いなく、チベット民族としての誇りが漂っていた。今日、明日の生活に苦勞している極貧の人々が、なぜそこまでできるのであろう。信仰心に乏しい私には到底考えも及ばない行為である。

ラサから更に西へ 300 km ほど離れたところにチベット第二の都市、シガツェがある。道中は標高 4,000 m を越す高地で、そこに存在するものは、遊牧民とヤクと羊だけだ。遊牧民が飼育するヤクや羊の排泄物が肥料となり、牧草が育つ、その牧草をヤクと羊が餌として食べ排泄する。そんな素朴な生活が繰り返されている。

今、そのチベット高原に舗装道路が構築されつつある。近い将来、ラサからシガツェは高速バスが運行し物流は飛躍的に改善される。搬路が確保されたことで、生活は豊かになり、より豊かな生活を目指して遊牧民は街に出る。放置されたヤクや羊はやがて死に絶え、遊牧民とヤクと羊が居ることで循環が保たれていたチベット高原は時間と共に荒廃し、砂漠化が進行する。誰もが予測できるこの現象をなぜ、止められないのだろうか。

経済的に豊かになることと心が豊かになることは必ずしも一致しないことが理解できるのは、経済的に豊かになってみないと気づかないのだろうか。

僅かな生活費をお布施に廻し、五体倒地でひたすらお祈りしていた、誇り高きチベット民族。ラサからシガツェへの移動途中で出逢った遊牧民のあの笑顔が何時までも続くことを願っている。

以上

お知らせコーナー

●平成16年度第2回例会 講演会開催ご案内

1. 日 時：平成16年8月21日(土) 13:30～17:00
2. 場 所：花車ビル5F会議室(花車ビル北館：地下鉄国際センター3番出口すぐ)
3. 内 容

(1) 代表幹事開会挨拶 13:30～13:40

(2) 講演・実演 13:40～15:30

演題：「からくり人形とロボット：日本人のロボット観」

名古屋大学留学生センター長

名古屋大学大学院工学研究科 電子機械工学専攻

教授 工学博士 末松良一 先生

(3) 質疑応答：15:30～15:50

(4) 休憩 : 15:50～16:00

(5) 懇親会 : 16:00～16:45 (場所：同一会場)

4. 会 費 : 2,000円(会員外3,000円)

内訳(講演会：1,000円、懇親会：1,000円)

当日会場受付にてお支払い頂きます。

5. 参加申込み：8月13日までに下記中部支部事務局(松田)までE-mailまたはFaxにて連絡願います。

E-Mail: g-chubu@asahi-net.email.ne.jp

F a x : 052-533-1305

6. 定 員：50名

7. CPD生涯教育：3時間に相当

8. この件のお問合せ：

上記の事務局又は下記担当幹事までEメールでお願いします。

・担当幹事： 杉本(漢): sugikanz@theia.ocn.ne.jp

伊藤 : YB1Y-ITU@asahi-net.or.jp

中西 : t_nakanishi@nakanihon.co.jp

-----切り取り-----

愛知県技術士会 平成16年度 第2回例会 講演会参加申込書(FAX用)

ご氏名		部門名	
事務所名又は会社名			

[愛知県技術士会会報の情報連絡先]

代表幹事 柴田素伸 〒492-8485 稲沢市中之庄町行燈18-86
TEL・FAX 0587-32-4758 E-mail: shibata-m@mvc.biglobe.ne.jp

「広場・湖海の土」 No.24

天の極地だより(2)

西脇 正倫(建設部門)

チベットは我々日本人にとって、辺境あるいは秘境といったイメージがつきまとう、実感をもって掌握しにくい国である。しかし、今回の旅行に参加した技術士の面々にとっての、チベットの実感とはまず頭痛だった。

なにせ酸素が足りない。自治区の首都であるラサで、酸素量は海辺の半分であるという。高山病は標高 2,400m あたりから発生するというが、一気に標高 3,600m、富士山の頂上近くにアプローチしたのだ。結果、M氏以外は、全員が夜半から激しい頭痛と悪夢にさいなまれ、それは一晩中続いたのだった。

それでも二日目には大半のメンバーは頭痛を克服、この日は大事をとって休養したメンバーもいたが、第3日の朝はラサの西300kmほどのシガチェに全員が出発できた。ラサとネパールを結ぶ中尼公路を南北に迂回しつつ、チベット第2の都市であるシガチェを折り返して、復路はトルコ石の湖の異名をもつヤムドク湖を巡りつつラサに戻る、行程700kmを1泊二日で走破する今回の視察のハイライトである。

ラサを出て1時間ほども進むと、もう建物のない世界だ。チャーターバスは樹木すらない緩やかなU字谷を縫いながら、標高5,256mのショガ・ラという峠を目指して高度を上げていく。メンバーの2名はバスの中でもボンベを抱きかかえたままだ。

やがて昼食。車をとめ、外にでて車座になって弁当を開く。白い峰を背景に、へばりつくような緑草に覆われたU字谷。はるか2kmもかなたかと思われるところにぼつんと「バ」と呼ばれる遊牧民のテントがある。テントのまわりに認められた小さな人影がどんどんと大きくなり、10分程もしないうちに、私たちの前に数名の遊牧民が立っていた。目ヤニで目がふさがりかけている中年男性、民族衣装の婦人、青いヤッケを着た女の子。特に少女は僕らの傍らにたたずんでじっと見つめるばかりだ。パンをひとつ差し出すと、受け取るけれども、そのパンを食べるわけでもなく、もっとほしがるわけでもない。こちらが笑顔を見せると、はにかむように少し笑顔を見せる。

その日の午後に到着したシガチェは、ラサを東京になぞらえるならば、大阪・京都に比することができる都市だ。タシルンポ寺という古刹があり、尺取虫のように地を這い、大地に身を投げ出す五体倒地で巡礼するチベット族の人々が多数集まる古都である。ごく一般の人々が、あまりに非効率的な苦行を今も続けている。

(次号につづく)

●平成 16 年度第 3 回例会 研究発表会の予告

第 3 回例会（研究発表会）は 10 月 16 日（土）に中部支部秋季例会と合同開催の予定です。

場所は金山・名古屋都市センター 11 階研修室で、当日は正午受付、12：30 開演の予定です。前半が愛知県技術士会業績発表会（仮称）、後半が中部支部秋季例会として名古屋大学高等研究院・工学研究科の森永正彦教授の講演となり、17：30 から懇親会の予定です。詳細は確定次第ご案内いたします。お楽しみにお待ちください。

●例会・講演会講師募集の案内

愛知県技術士会では会の活動として 4 月の総会、6 月、10 月の研究発表会（業績発表会）、8 月の講演会、11 月の見学会、2 月のふれあい技術士プラザが計画されています。実施にあたっては、会場の設定や講師の手配、出演依頼など、それぞれの担当幹事が中心となって準備を進めております。

今後はより広い範囲の情報を基に講演会を運営したいと考えておりますので、会員の皆様方から自薦、他薦を問わず講師をあらかじめご登録いただき、今後の会運営をよりスムーズに運ぶとともに、会員の皆様方に発表の場を提供して行きたいと考えております。発表時間は質疑を含め 20 分から 30 分程度を予定しています。講師への登録はいつでも結構です。お名前と発表希望時期、ご連絡先（TEL or E-Mail）を事務局までご連絡ください。

受付は事務局（中部支部松田さん）にて行います、皆様方からの多数の応募をお待ちいたしております。

●愛知県技術士会会員の異動

新入会（0 名）

6 月、7 月は新入会はなし。

退 会（3 名）

中村 稔（建設）

秦 滋康（電気電子）

山下和雄（上下水道）

●編集後記

東から西北に進路をとった台風に象徴されるよう、今年の夏は異常気象となっています。東京では連日 40 度近い猛暑となり、新潟、福井では集中豪雨による災害が発生しております。世の中、景気の良い話はどこにもありませんが、こんな時こそ、背を伸ばし、前を見て行きたいものです。暑さに負けないよう、体調管理をしっかり行い、この夏を乗り切りましょう。

（編集委員：間瀬）